

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
320	2006/07/28	60320	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
321	2006/07/28	60321	バクスター	人血清アルブミン	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	有	無			
322	2006/07/28	60322	バクスター	加熱人血漿たん白	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
323	2006/07/28	60323	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子阻害物質補正活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
324	2006/07/28	60324	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	該当なし	添加物	無	無	無			
325	2006/07/28	60325	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	インスリン(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ脾臓	米国	製造工程	無	有	無			
326	2006/07/28	60326	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞株	該当なし	有効成分	無	有	無			
327	2006/07/28	60327	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。発育鶏卵培養によりウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、HAは2004N5N1とは異なり、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。NAはタイで分離された2004-2005H5N1と同じアミノ酸欠損を示した。本症例では血液中にウイルスが存在したことから、感染者の血液の取り扱いには注意深く行うべきである。
328	2006/07/28	60328	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-1)	ウシ血液	米国	製造工程	無	有	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
329	2006/07/28	60329	バクター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	アプロチニン	ウシ肺	ニュージーランド	製造工程	無	有	無			
330	2006/07/28	60330	バクター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ血液	オーストラリア	製造工程	無	有	無			
331	2006/07/28	60331	バクター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用-2)	ウシ肝臓	米国又はカナダ	製造工程	無	有	無			
332	2006/07/28	60332	バクター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	有	無			
333	2006/07/31	60319	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ人旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。カナダ公衆衛生局は旅行者に対し、蚊に刺されないように等、注意を呼びかけている。
334	2006/08/03	60333	ベネシス	ウロキナーゼ	精製ウロキナーゼ液	人尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチクングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチクングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。さらに、RT-PCR試験を実施した112血清検体の内11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関係があった。これらのデータは、検査された血液ドナーの中に、過去にVesivirusに感染したヒトも、またVesivirusウイルス血症者もいることを示している。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。

No.	発掘口	群号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することがあることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrPSc)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrPScが吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrPScは生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のバリンがホモ接合体であった。今まで調べられたvCJD患者は、メチオニン/バリンのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がメチオニンのホモ接合体サブグループであり、バリンホモ接合体サブグループがvCJDに対して感受性があることが初めて示された。この遺伝子型のvCJD感染者は長い潜伏期間を有している可能性があり、この間に水平感染が供血または無症候期の感染者に使用された汚染手術用具のいずれかから起きる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコードン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。BSEからヒトへの感染は種の壁の存在によって制限を受けているが、vCJDのヒトからヒトへの感染は実質的に壁が低くなっているように思われる。さらに、コードン129の遺伝子型に関係なく、輸血のようなルートによって、vCJDの2次感染が起こりやすい可能性がある。潜伏期間の長い疾患はこれらのモデルによって予測ができ、疾患の伝播拡大の危険性や有意な公衆衛生上の問題を示すであろう。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高く、血液製剤によるHEV伝播の時期を示唆する結果が得られた。
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 52: 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。HEV問診や抗体スクリーニングはHEV RNA陽性者の排除には有効ではない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。ヒトのプリオンに感染した場合の潜伏期間は、50年を超える可能性がある。
335	2006/08/03	60334	デンカ生研	発疹子ブスワクチン	卵黄囊	ニワトリの受精卵	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無	鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2108-2112	ヒトから分離されたH5N1ウイルスHAは閉裂部位に塩基性アミノ酸が連続しており、ヒトへ順化していない段階で50%以上の致死率を示す。また同ウイルスに2ヶ所のアミノ酸変異を導入するだけでヒト型受容体への親和性を獲得する。
												鳥インフルエンザ	日本臨床 2005; 63(12): 2103-2107	2003年12月から2005年5月に、トリインフルエンザA/H5N1ウイルスはベトナム、タイ、カンボジアで100人に感染し、54人が死亡した。大部分はトリからの感染であるが、ヒト-ヒト感染も報告されている。サーベイランス網構築、ワクチン開発、抗ウイルス剤備蓄などが必要である。
												鳥インフルエンザ	侵襲と免疫 2005; 14(4): 105-110	トリインフルエンザに関する総論。トリインフルエンザウイルスの構造、疫学、病原性、ヒトへの感染性、診断法、防疫法について述べている。
												鳥インフルエンザ	第21回日本環境感染学会学術集会 2006年2月24-25日	茨城県のトリインフルエンザに対する取り組みについて報告した。6月26日、水海道市の養鶏場でH5N2亜型のA型インフルエンザ感染が確認され、翌27日に対策本部を設置し、鶏の殺処分を決定した。県保健衛生部では発生養鶏場の従業員と家族の健康調査、殺処分等防疫措置作業者の健康調査を行った。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
336	2006/08/09	60335	日研化学	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト(閉経期婦人尿)	中国	有効成分	無	無	無			
337	2006/08/10	60336	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエローマ細胞及びマウスチソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作成したハイブリドーマ	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
338	2006/08/10	60337	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児肺細胞	米国	有効成分	無	無	無			
339	2006/08/10	60338	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
340	2006/08/10	60339	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
341	2006/08/10	60340	旭化成ファーマ	チソキナーゼ	ブタペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
342	2006/08/11	60341	興和	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児の肺に由来する正常二倍体線維芽細胞	米国	有効成分	無	無	無			
343	2006/08/11	60342	アボット・ジャパン	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	無	無	無			
344	2006/08/11	60343	興和	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエローマ細胞及びマウスチソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作製したハイブリドーマ	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
345	2006/08/11	60344	興和	チソキナーゼ	ペプトン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
346	2006/08/11	60345	興和	チソキナーゼ	ウシの血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
347	2006/08/11	60346	興和	チソキナーゼ	人血清アルブミン	ヒト血清	日本	添加物	無	無	無			
348	2006/08/11	60348	大日本住友製薬	酢酸ソマトレリン	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	無	無	無			
349	2006/08/14	60347	大日本住友製薬	コンドロイチン硫酸鉄	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨(気管)	米国、メキシコ	添加物	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
350	2006/08/15	60349	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
351	2006/08/15	60350	中外製薬	エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ヒトインスリン(遺伝子組換え)	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
352	2006/08/15	60351	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	溶連菌抽出物注射用		有効成分	無	無	無			
353	2006/08/15	60352	中外製薬	エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン(BSA)	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
354	2006/08/15	60353	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ペプトンN粉末	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。
355	2006/08/15	60354	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	牛肉	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないと言っている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
356	2006/08/15	60355	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型)Su株ペニシリン処 理凍結乾燥粉末	Tedd Hewitt Broth	ウシ:心臓、 骨格筋、骨 髄、脂肪組 織、結合組 織、乳 ブタ:心臓、 脾臓、胃	ウシ:米 国、オー ストラリ ア、ニュー ジランド ブタ:米 国、イタリ ア、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないとしている。
357	2006/08/16	60356	日本生物 製剤	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤	日本	有効成分	有	無	無	BSE	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年4 月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はカナダのウシにおける5例目のBSE症例について発表した。この発見により、カナダにおけるヒトの健康に対する新たなリスクはもたらされていない。vCJDに関するQ&Aとして、ヒトの健康に対するリスクとは？、将来的にカナダにおいてvCJD症例は発生するか？、マウスの臓器内でプリオンが確認された最近の研究がヒトの健康に関して意味するものは？などが記載されている。
												HTLV	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年1 月20日	カナダNunavut保健局は、HTLV-1に関連して少なくとも1人の死亡例、ならびに20人未満の感染例を報告した。本報告に対応して、Nunavut保健当局および社会サービスは妊婦および一般集団に対し、検査の提供を10月に開始した。2005年12月7日現在、300人が検査を受けたが、感染者およびHTLV-1関連死亡者の正確な数は公表されていない。カナダ血液サービスは1990年以降、献血血液のHTLV-1スクリーニングを行っているが、年間80万供血あたり平均10~12件が陽性である。Nunavutで15例が感染したとしても、人口29000人中、感染率は0.05%である。
												異型クローン フェルト・ヤコブ 病	CDR Weekly 2006. 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060218-0030	Zagrebから当地に届いた報告によれば、クロアチア政府は2月16日、国内初となるBSE症例を確認したと明らかにした。クロアチア国営テレビは、診断確定のため、問題の5才令のウシの脳検体が、英国のWeybridge研究所に送られたと報じた。
												C型肝炎	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	汚染された血液を介してC型肝炎に患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。C型肝炎が重要な結果をもたらすことは1989年に明らかとなり、1991年には信頼できる試験法が開発された。血液製剤の自給ができていたとしても、C型肝炎の感染から血友病患者を防げたわけではないことなどが記載されている。
												HIV	英国保健省 Press releases 2006/0076 2006年2月27日	1970年代から1980年代初頭にかけて、汚染された血液を介してC型肝炎およびHIVに患者がどのように感染したかに関するレビューが発表された。このレビューは1973年から1991年の文書に焦点を当て、実施された重要な決定の分析を行っている。
												BSE	ProMED20060307-0020	スウェーデンで狂牛病第1例(12才乳牛)が発見された。妊娠後期に起立不能症になり、治療に反応しなかったため殺処分された。迅速診断の結果、BSE陽性であり、次いでスウェーデン国立獣医学研究所でウェスタンブロット法と免疫組織化学染色を行ったところ、いずれも陽性であった。確認のために検体を英国に送ったが、結果はやはり陽性であった。
												感染	FDA Public Health Notification 2006年3月2日	FDAは、BioMedical Tissue Services(BTS)により回収されたヒト組織に関する情報の更新を医療関係者に通知した。FDAのドナー適格要件に適合していない可能性があったり、感染症について適切なスクリーニングをされなかったおそれのあるヒト由来の骨、皮膚、臍を含む組織はBTSにより回収された。BTSドナーから加工された組織インプラントを受けた患者には感染症伝播のリスクがあることを知らせ、検査を受けるように伝えることを医療関係者に強く求めた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060314-0020	ウェスタンブロット法により米国アラバマのウシが狂牛病であったことが明らかとなった。ウシはSanta Gertrudis種の10才を超えるウシで、1997年の肉骨粉禁止前に生まれたとみられる。獣医が最初に見たときにヘタリウシであったが、その後も改善しないため安楽死させ、検体採取していた。Clifford獣医主任による狂牛病感染牛の発症、感染から検査結果確認までの経過報告。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 5285-5290	ヤギおよびウシのプリオン蛋白の発現を抑制することができるshRNAを、レンチウイルスベクターを用いて、ヤギ線維芽細胞にGFPと共発現させた。これらの細胞を用いて核移植を行い、クローンヤギ胎仔を作成した。クローン胎仔では検査した全ての組織でGFPを発現し、PCRでPrP shRNAをエンコードする遺伝子の存在が確認された。脳組織をウエスタンブロットしたところ、対照胎仔に比べ90%以上のPrP発現減少を示した。ウシの卵の卵黄周囲に組み換えウイルスを注射し、in vitroで受精させ、培養したところ、76%の胚細胞がGFPを発現し、PrP標的shRNAの発現を示唆した。この方法は耐病性のある遺伝子組み換え家畜を作り出すのに有用である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	2005年2月に日本ではじめて報告された変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の患者は51才の男性で、1990年BSEの流行中の英国で約24日を過ごした。彼は訪問中に機械処理で回収した肉を食べたことが判っており、フランスなど他のヨーロッパの滞在国あるいは日本での暴露の可能性は否定できないが、英国訪問時がもっとも疑われている。英国での暴露が感染の原因だとすれば、潜伏期間は11年半であったことになる。発症から19か月後の脳波(EEG)は、周期性同期性放電(periodic synchronous discharges: PSD)を示さなかった。しかし30か月以降では同パターンが出現した。これまでには、vCJD患者のEEGでのPSD所見についての報告はなかった。

No.	採掘日	番号	報告書名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060405-0020	輸血でだれもがvCJDに感染する可能性がある。しかし遺伝子によってどんな症状が出るかが決定される可能性がある。これまでのところ、ヒトvCJD患者の全例が、ある特定の遺伝的プロファイルを持つ者であった。しかし、国家CJD監視部局と動物保健施設の研究者らのマウス実験によると、他の遺伝子型の者も危険があることが示唆される。Lancet Neurologyによると潜伏期が一部の者で長くなる可能性がある。これまでに英国で161例、フランスで18例、世界の他の国で12例のvCJD患者が報告されているがほとんどが英国出身者である。現在のところヒトが、輸血などの経路でどのくらいvCJDに感染しやすいかは明確でない。
												A型肝炎	ProMED20060408-0040	オークランド地区公衆衛生局(ARPHS)とニュージーランド保健省は、オークランド地区のA型肝炎集団発生の調査中であり、2006年1月15日から4月7日までの間に29人の患者を確認した。患者には、潜伏期間内のトンガ(13人)とサモア(9人)への渡航歴もしくは最近海外旅行から帰国した人との濃厚な接触が共通項として認められた。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日、16日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された6歳の牝牛である。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。
												BSE	ProMED20060426-0060	2006年4月24日、エストニア農業省は、屠殺場での定期検査(簡易迅速検査)により、死亡した11才令の乳牛のBSE感染を確認したと発表した。もし診断が確定されれば、今回の症例は同国で初のBSE症例となる。農業省広報部は、問題のウシはエストニア南東部にあるJogevamaa郡の牧場で飼育されていたと発表した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。勧告として、ドナーの暫定的延期基準、さらに加工される血漿は血漿由来製品の製造に用いるウイルス不活性化処理では確実にウイルスを不活性化しなくてはならないことから、これらの勧告による影響を受けないことなどについて記載されている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
												鳥インフルエンザ	CDC Emerg Infect Dis 12(6) 2006年6月	2004年1月から、タイでは22名のヒトがトリインフルエンザAウイルス(H5N1)に感染し、内14名が死亡した。2005年11月28日に発症し、12月7日に死亡した患者(5歳少年)の死亡当日の血液検体から生きたH5N1ウイルスが確認された。ヒトの血清または血漿中に生きたインフルエンザウイルスが観察されることは稀であるが、最近ではベトナムでも報告されており、患者の血液検体を取り扱う際にはウイルスの拡大を防ぐための厳重な注意が必要である。
358	2006/08/16	60357	味の素	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
359	2006/08/16	60358	第一ラジオアイソトープ研究所	ヨウ化人血清アルブミン(131I)	ヨウ化人血清アルブミン(131I)	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
360	2006/08/18	60359	アステラス製薬	バミテプラゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞		製造工程	無	無	無			